

飯田市農業振興ビジョン（案）【概要版】

農業・農村に係る課題を解決し、活力ある農業・農村の構築による地域活性化を図るための指針として策定します。

計画期間 平成30年度（2018）～2028年度

現状分析

農家数と農家人口の著しい減少
過去10年間（H17～H27）の比較
総農家数 ▲15.8%
農業従事者数 ▲37.7%

経営規模等の特徴

- ・農業人口率が高く、従事する市民が多い。
- ・小規模農家の割合が高い。

農畜産物の特徴

- ・標高差や、気候条件の良さを活かした、少量多品種の農産物の栽培
- ・果樹、野菜の複合経営が特徴的

リニア時代の到来・時代背景への対応

- ・田園回帰、田舎志向の高まり
- ・農山村文化、農畜産物、食を活かし都市農村交流を促進

基本構想（11年間） 目指す農業・地域の姿

地域経済を支える農業

農業を活かした地域づくり

キャッチフレーズ ～誰もが考え実践できる、特色ある地域農業の実現～

<p>●多様な担い手により持続する農業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者や農業法人などの意欲ある農業者が、安定して収益性の高い農業経営を行っている。 ・幅広い年代で、地域住民やIターン者が、農業を継いだり新たに就農したりして定着している。 ・兼業農家や、趣味や生きがいとして農業に取り組む市民も多く、大勢の市民が農業に関わって活躍している。 	<p>●多種多品目の農畜産物を生産する産地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高品質で安全・安心な農畜産物が生産され、日本中の消費者に喜ばれている。 ・こだわりをもってつくられた農畜産物が、産地ブランドとして認知され、高い評価を受けている。海外に輸出される農畜産物も増えている。 ・他業種・他産業と連携して、付加価値の高い農畜産物がつくられ、新しい特産品となっている。 	
<p>●生産基盤の維持により保全される多面的機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地、水路、農道などが適切に管理され、農業生産に役立っている。 ・地域住民の取組で、農地が保全・活用され、水路・農道などの機能が維持されている。 ・防災、景観育成、生物多様性の保持など農業の多面的機能が発揮されている。 	<p>●16地区の個性が輝く地域農業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区の農業・農村資源を活かした田舎に還ろう戦略が展開されている。 ・多くの市民が農業を身近なものとして感じ、農ある暮らしを楽しんでいる。 ・農業や農村文化をベースとした都市農村交流が各地区で行われている。 	<p>●多様な主体が協働して推進する農業振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業振興センター及び地区農業振興会議（農業者、生産団体、行政）が課題や目指す姿を共有し、それぞれに役割をもって連携・協力して課題の解決に向けた取組を進めている。

基本的方向（3～4年間）



※基準値（2016）→目標値（2020）

<p>1 後継者・新規就農者の確保と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○後継者、新規就農者が栽培技術など農業経営に必要な知識・技能を習得し、農業経営を安定させて定着 ○地元と連携して、Iターン者が地域に定着 <p>新規就農者 21人→27人（年間）※</p>	<p>2 地域農業の中心となる担い手の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○意欲ある農業者が、農家の目標となるモデル的な経営者に ○労働力の確保、機械・施設整備による省力化・効率化 <p>認定農業者 212人→240人※</p>	<p>3 多様な担い手の確保と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○兼業農家など、さまざまな農業者により地域農業を守る ○農業に係る講座等の開催、学習活動への支援 <p>販売農家・自給的農家の合計 3,831戸⁽²⁰¹⁵⁾→3,600戸</p>	<p>4 消費者に信頼される農畜産物の生産</p> <ul style="list-style-type: none"> ○推奨品目の導入、生産施設整備等を支援し生産力向上 ○IoT等の新技術の活用を研究 ○野生鳥獣、自然災害の影響を低減する取組 <p>農産物販売額（飯伊）192億94百万円→200億円（年間）※</p>
<p>5 ブランド力の強化と新たなマーケットへの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ブランド推進体制と情報発信力を強化。海外での販売展開も視野に入れたマーケティング活動 ○次なるブランド化推進。産地意識の醸成、生産・消費の拡大 <p>市田柿出荷量 2,411トン→2,500トン（年間）※</p>	<p>6 他産業と連携した高付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○6次産業化等、高付加価値を生み出す取組の事業化に向けた支援 <p>6次産業化 計画認定数 3件→4件（累計）※</p>	<p>7 域産域消による地域経済の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地場産業を担う農工商業者が連携した域産域消活動 ○食と農の循環型社会づくりのモデルである堆肥センターの取組 <p>域産域消食育店 19店舗→25店舗※</p>	<p>8 持続的な営農を支える生産基盤の整備と保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ○優良農地の保全、用水路や農道の維持管理・整備 ○耕作条件の改善に向けた基盤整備 <p>農振農用地区域 2,565.3ヘクタール→2,540ヘクタール※</p>
<p>9 荒廃農地の発生防止と農地の有効利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○担い手への集積等、農地の流動化 ○市民農園、レクリエーション農園の開設と運営支援 <p>貸し付けられた農地 826ヘクタール→854ヘクタール※</p>	<p>10 地域ぐるみで行う多面的機能の維持・増進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多面的機能支払や中山間地域農業直接支払等による、地域が主体となった農地の保全・活用の取組支援 <p>多面的、中山間の対象農地 575.4ヘクタール→585ヘクタール※</p>	<p>11 地域資源を活かした交流の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域資源を活かしたグリーンツーリズム等の都市農村交流 ○農をベースにした魅力ある地域づくりを推進 <p>農業宿泊体験受入農家 146戸→150戸※</p>	<p>12 協働による推進体制の再構築と機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地区農業振興会議の活性化 ○農業振興センターの協働体制を再構築

具体的取組（1年間）

- 農業振興センターは、農業者、関係団体、地区の思いを受けとめ、毎年度の取組を企画・立案し、実践します。
- 共通課題を農業振興センターが調査・研究し、関係者と連携して解決方法を企画・立案していきます。
- 毎年度の取組を評価し、進行管理を行なって、取組の効果をより高めていきます。
- 農業者や地区の思いを受け、一緒に考えて取り組む「伴走型支援」を進めます。